

山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

許家維＋張碩尹＋鄭先喩

## 浪のしたにも都のさぶらふぞ

YCAMとのコラボレーション

2023年6月3日(土)～9月3日(日) 10:00～19:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

## 砂糖を通して見る台湾と日本の近代化の記憶 台湾を拠点に活躍するアーティストの新作を公開！

山口情報芸術センター [YCAM] では、台湾を拠点に活躍するアーティスト、許家維(シュウ・ジャウエイ)＋張碩尹(チャン・ティントン)＋鄭先喩(チェン・シェンユウ)による新作を発表する展覧会「浪のしたにも都のさぶらふぞ」を開催します。

この3人は、それぞれ台湾の主要な美術賞を受賞し、海外の国際展にも招聘されて国際的にも注目を集めているアーティストです。近年は、共同で、日本統治時代の台湾における砂糖産業を起点に、台湾と日本の歴史的関係や近代化の記憶を辿るプロジェクトをおこなっています。

本展では、このプロジェクトに連なる新作として、日本の近代化とともに産業が発展し、国際貿易港が誕生した北九州の門司および門司港を舞台に、人形浄瑠璃とCGアニメーションを組み合わせ、映像とライブパフォーマンスからなる展覧会名と同名の新作を、YCAM とのコラボレーションにより制作・発表します。

山口からほど近い門司および門司港の近代化やアジア太平洋戦争の記憶を、多様なアプローチから紐解く本展を通じて、日本と台湾との間の知られざる歴史を描き出します。この機会にぜひご鑑賞ください。



《浪のしたにも都のさぶらふぞ》  
撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ】

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課  
〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 メールアドレス：press@ycam.jp ウェブサイト：www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

## 国際的に活躍するアーティストとYCAMのコラボレーション



左から鄭先喩、許家維、張碩尹  
撮影：山中慎太郎 (Qsyumi)

YCAMは、開館以来、メディア・テクノロジーを応用した新たな表現の探求を活動の軸に据えており、これまでに坂本龍一、ダムタイプ、中谷芙二子、ホー・ツーニエンといった第一線で活躍するアーティストたちとともに多種多様な作品を制作・発表してきました。本展では、台湾を拠点に活動する、アーティストの許家維、張碩尹、鄭先喩がYCAMとのコラボレーションのもと、映像とライブパフォーマンスからなる新作を発表します。

3人はともに1980年代生まれで、台湾の主要な美術賞を受賞するほか、海外の国際展にも多数招聘されるなど国際的な評価も高いアーティストです。この中でも許は日本で作品が紹介される機会も多く、日本国内の芸術祭で新作を発表するなど、日本国内でも高い注目を集めています。

近年この3人は共同で、日本統治時代の台湾における砂糖産業を起点に、日本と台湾の関係や東アジアの近代化の記憶を辿るプロジェクトを行っており、2021年には、このプロジェクトの第一部として、製糖業で発展した台湾の街・虎尾（フーウェイ）を舞台に制作したインスタレーション作品《等晶播種》を台湾・台北で発表しました。

本展では、その作品に続く第二部として、YCAMとのコラボレーションにより新作を制作し、世界初公開します。舞台となるのは、虎尾と同様に現在に至るまで製糖工場が稼働し続ける北九州市の門司。東アジアの近代史において合わせ鏡のような運命を辿ってきた二つの都市の記憶を多様なアプローチで紐解いていきます。

### ■ 許家維 (シュウ・ジャウエイ)

1983年台中生まれ、台北在住。フランスのル・フレノワ国立現代芸術スタジオを卒業後、美術家、映像作家、キュレーターとして現代美術と映画の言語を融合させ、イメージが作られる複雑なメカニズムを解き明かす作品を発表。作品を通して、従来の歴史の語りでは忘れ去られて排除されてきた人間、物質、場所の関係性を紡いでいく。2016年の台北ビエンナーレ、2018年には上海、光州、釜山、シドニーのビエンナーレ、2019年のシンガポール・ビエンナーレなど国際展に参加。また、キュレーターとしてホー・ツーニエンとともにアジア・アート・ビエンナーレ2019（国立台湾美術館、台中）を共同企画。日本では、国立国際美術館や森美術館、シアター・コモンズ'18で作品を発表し、2022年、国際芸術祭「あいち2022」に参加。

### ■ 張碩尹 (チャン・ティントン)

1982年台北生まれ、台北およびサンティアゴ・デ・コンポステーラ（スペイン）を拠点に活動。2011年にロンドン大学ゴールドスミス・カレッジでMFA修了後、張は国際的に作品を発表してきた。インスタレーション、映像、舞台作品など様々な領域を横断するコラボレーション・プロジェクトを行う。

キューブ・プロジェクト・スペース（台北）や国立台北教育大学博物館（MoNTUE）、台北市立美術館で個展を開催してきたほか、広州トリエンナーレ（2018年）や台北ビエンナーレ（2018年）などの国際展に参加。主な受賞歴に、第19回台新芸術賞（2019年）、台北アートアワード2020、香港アート・セントラルRISEアワード2016など。

### ■ 鄭先喩 (チェン・シェンユウ)

1984年高雄生まれ、台北在住。国立台北芸術大学劇場設計学部を卒業後、オランダのハンゼン応用化学大学ミネルヴァ美術アカデミー・フランク・モール研究所（フローニンゲン）で修士号を取得。アーティストおよびソフトウェア開発者として鄭の活動は、電子機器を用いたインスタレーションから、ソフトウェアおよび実験的な生物電子装置まで多岐に渡り、人間の振る舞いや感情、ソフトウェア、機械の関係性を探求している。広州トリエンナーレ（2020年）をはじめとして、台湾およびアジア、ヨーロッパで個展の開催やグループ展に参加している。2019年の銅鐘藝術賞や第19回台新芸術賞など受賞歴多数。

## 人形浄瑠璃とCGアニメーションを融合した、映像とライブパフォーマンス



新作《浪のしたにも都のさぶらふぞ》  
撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

本展覧会は新作を含む二部作で構成されます。第一部の《等晶播種》は製糖業で発展した台湾の虎尾を舞台に、日本統治時代に建てられた製糖工場をはじめ近代化の遺産が残る街の歴史を、台湾の伝統的な人形劇による語りや音楽とともに描く映像インスタレーションです。

第二部の新作《浪のしたにも都のさぶらふぞ》の舞台は、日本の近代化とともに産業が発展し、国際貿易港が誕生した北九州の門司、そして門司港です。門司にも製糖工場があり、かつては虎尾の製糖工場と同じ会社が運営していました。二つの街は砂糖で繋がっていたのです。また戦時中に戦略的に重要な拠点であったため、戦争の激化に伴い、空襲による大きな被害を受けたという共通点も持ちます。本作では日本の伝統的な人形劇である人形浄瑠璃の形式が取り入れられ、太夫、三味線、人形遣いが登場します。門司の近代における繁栄や戦争の記憶が、関門海峡の壇ノ浦で源氏に敗北した平家の物語や現代のテクノロジーの問題と重なりながら、人形や太夫の語り、三味線やパーカッションが奏でる音楽とともに描かれます。

両作品に共通する、人形劇における人形遣いと人形の「操る—操られる」関係性。《浪のしたにも都のさぶらふぞ》ではVRを操作するパフォーマーとアバターの関係が加わることにより、その「操る—操られる」関係性がより協調されます。誰が操り、操られているのか。歴史の中で繰り返されるこの関係性を生み出す動力とは何なのか——過去と現在、現実世界と仮想世界を行き来しながら見る者に問いかけます。

許家維＋張碩尹＋鄭先喩

浪のしたにも都のさぶらふぞ

YCAMとのコラボレーション

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

出品作品

《等晶播種》

2021年、3チャンネル・ビデオ・インスタレーション、32分18秒

許家維＋張碩尹＋鄭先喩

《浪のしたにも都のさぶらふぞ》

YCAMとのコラボレーション 2023年、6チャンネル・ビデオ、VRパフォーマンス、約36分

〈出演〉

文楽人形遣い | 吉田玉助、桐竹紋吉、吉田玉路(公益財団法人文楽協会)

太夫 | 竹本友和嘉

三味線・大正琴奏者 | 田中悠美子

パーカッション | Taikimen(山崎大輝)

ラボ研究員 | 伊藤隆之\*

VRパフォーマー | 坂井遥香、陳秋輝 ※Wキャスト

〈制作〉

アーティストック・ディレクション | 許家維、張碩尹、鄭先喩

キュレーション | 吉崎和彦\*

テクニカル・ディレクション | 時里充\*、大脇理智\*、伊藤隆之\*

プロジェクト・マネジメント | 趙宜恬

リサーチ・撮影コーディネーション | 池上貴弘、若本史緒(門司港アート・プラットフォーム)、趙宜恬

音楽監督 | 許德彰

浄瑠璃・大正琴作曲 | 田中悠美子

三味線作曲 | 田中悠美子、許德彰

パーカッション作曲 | 許德彰

音響デザイン | 許德彰

サウンド・ミキシング | 許德彰

音楽協力 | 田中悠美子

映像監督 | 許家維

撮影監督 | 森内康博

撮影 | 森内康博、鄭馬辰、時里充\*、山岡大地\*、大脇理智\*

ドローン撮影 | 白澤哲浩

モーション・キャプチャー | 大脇理智\*、時里充\*

3Dスキャン | 高原文江\*、時里充\*

録音 | 葛西俊彦、加瀬拓真、中上淳二\*、伊藤隆之\*

照明 | 高原文江\*

衣装デザイン | 陳必綺

メイクアップ | 鄭先喩、陳必綺

プロダクション・マネジメント | クラレンス・ン

楽器デザイン | 張碩尹

楽器制作 | 林國璋、張碩尹、鄭先喩、大脇理智\*

アルコール製造 | 伊藤隆之\*、高原文江\*、太田通夫\*

セットデザイン | 張碩尹

美術 | スーパーファクトリー、大脇理智\*、石崎智子\*、正分あゆみ\*、時里充\*

映像編集 | 許家維

カラーコレクション | 楊子逸

VFX | 蔡承錫、楊子逸

CG制作 | 半澤智朗

CGアニメーション | 時里充\*

CGアニメーションアシスタント | 板倉勇人\*

字幕制作 | 鄭馬辰、板倉勇人\*

パフォーマンス・ディレクション | 張碩尹

舞台監督 | クラレンス・ン\*

影絵装束 | 安藤充人\*

インスタレーションデザイン | 張碩尹、鄭先喩

メディア同期システム構築 | 中上淳二\*

コーディネーション | カルティカ・メノン\*、福地ひかり\*、仲島智紗子

脚本 | 楊朝輝、張碩尹

脚本共同編訳 | 池田リリィ西藍、山本浩貴+h(いぬのせなか座)、田中悠美子、吉崎和彦\*

浄瑠璃超訳 | 田中悠美子

英語翻訳 | 若本史緒

撮影協力 | 関門製糖株式会社、新門司砕石工業株式会社、三宜楼、北九州フィルム・コミッションスペシャルサンクス | 門司港アート・プラットフォーム、虎尾糖廠

\*... YCAMスタッフ

## 開催概要

許家維+張碩尹+鄭先喻  
浪のしたにも都のさぶらふぞ

YCAMとのコラボレーション

2023年6月3日(土)～9月3日(日) 10:00～19:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

入場無料

休館日：火曜日

新作《浪のしたにも都のさぶらふぞ》(約36分) 上演時間

平日：14:05～

土日祝：10:45～／12:50～／14:55～／16:20～

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

助成：令和5年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業、財団法人国家文化芸術基金会(台湾)

制作協力：門司港アート・プラットフォーム

協力：台湾文化部(省)、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター、関門製糖株式会社、新門司砕石工業株式会社、三宜楼、北九州フィルム・コミッション

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

## 関連イベント

## キュレータートーク

6月18日(日) 11:30～12:30、7月23日(日) 13:40～14:40

8月5日(土) 13:40～14:40

集合場所：ホワイエ

参加無料(要申込)

## サンカクトーク

6月17日(土)、7月9日(日)、7月23日(日)、8月26日(土)

各回16:00～18:00 集合場所：ホワイエ

参加無料(要申込)

作品について参加者同士でディスカッションするイベントです。

## 関連情報

## 展覧会カタログ刊行

本展、「浪のしたにも都のさぶらふぞ」の展覧会カタログを2024年初旬に全国書店にて発売予定。

刊行時期：2024年初旬 言語：日本語、台湾華語 価格未定

## 台湾への巡回展示

会場：鳳甲美術館(台湾・台北)

会期：2024年4月から

詳細は鳳甲美術館ウェブサイトをご確認ください

<https://www.facebook.com/honggahmuseum.tw>

## ■ 関連イベントの申込方法

関連イベントの詳細ならびに申込方法はYCAMのウェブサイトをご確認ください。

ウェブサイト：

[www.ycam.jp](http://www.ycam.jp)